



あいかわ りえこ
藍川 理映子 Rieko Aikawa ヴァイオリン

名古屋生まれ。長谷部直子、進藤真弓、北垣紀子各氏に師事。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科修了。久保良治、故・久保田良作各氏に師事。中部読売新人演奏会、桐朋学園新人演奏会に出演。
2000年、霧島音楽祭奨励賞受賞。メロス奨学金授与。
02年よりウィーン国立音楽大学にて、Michael Schnitzler氏、同大学大学院室内楽科にてJohannes Meissl、Avo Kouyoumdjian各氏に師事。
02,04,06年オーストリア国際室内音楽祭”Allegro Vivo”賞を受賞。国営放送ORFにて放送される。03年スイス・Ticino Musica国際音楽祭にてピアニストMaria Conti氏と共にリサイタル開催。04,05年PMF音楽祭参加。(ヴァレリー・ゲルギエフ、ファビオ・ルイーヅ、ネッロ・サンティ指揮)。
05年ウィーン国立音楽大学第1ディプロマ・ソロバイオリン科を最優秀の成績で卒業し、帰国。05~08年8月まで佐渡裕監督・兵庫芸術文化センター管弦楽団コアメンバー。フォアシユピラーを務める。同年9月より文化芸術家在外2年派遣研修員として再びウィーンJ.Meissl氏のもとに留学。ウィーン国立音楽大学第2ディプロマ・室内楽科を最優秀で卒業。
ソリストとして兵庫芸術文化センター管弦楽団、ウィーン、パイロイトにてBade n sinfoniettaと共演。名古屋、東京、横浜などでリサイタル開催。マスタークラスにてGeorgy Pauk, Franco Mezzena, Christian Altenburger, Daniel Geade Rainer Honeck各氏などに師事。
10年9月よりオーストリアリンツ・ブルックナー管弦楽団(Linz Brucknerorchester)ヴァイオリン奏者。現在は第2ヴァイオリン副首席奏者代理を務めている。オーストリア、リンツ在住。



あさい だい
朝井 大 Dai Asai ピアノ

1999年愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻首席卒業、桑原賞受賞。同大学定期演奏会、卒業演奏会、読売中部新人演奏会、碧南市エメラルドホール主催新人演奏等多数出演。2002年同大学大学院音楽研究科修了と同時に渡独、ドイツ国立ドルトムント音楽大学演奏家コースを経て、2005年ドイツ国立エッセン・フォルクヴァング音楽大学演奏家コースを卒業、2005年10月より2008年3月まで同大学大学院国家演奏家資格取得コースにて研鑽を積む。これまでに河津めぐみ、松野稀一、故八重口敬子、ディーナ・ヨッフエ、故ヘンリエッタ・ミルヴィス、ヴァディム・サハロフ、アルヌルフ・フォン・アルニム、ボリス・プロッホの各氏に師事。
2003年、イタリア・バルレッタ市国際ピアノコンクール第1位。2004年フランス・パリニコライ・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール第1位。2005年ドイツ・デュッセルドルフ ショパン追悼コンクール第3位モンブラン特別賞受賞。ドイツ・イタリア・日本においてソロ・室内楽のコンサートに多数出演、また2011年にはセントラル愛知交響楽団とベートーヴェンとショパンのピアノ協奏曲を共演、2012年熱田文化小劇場モーニングコンサート出演、好評を得る。現在ドイツ・ドルトムントに在住し演奏活動とドルトムントを中心に各地の音楽学校で後進の指導にあたっている。また2009~2011年、イタリア・チェルボ夏期国際音楽アカデミーの専属伴奏者を務める。
2010年よりショパン生誕200年を記念して、ドイツにてショパンの独奏曲全曲演奏にも取り組んでいる。2012年1月デビューアルバム『Dai Asai Plays Chopin』をリリース。2014年7月セカントアルバム『The Romantic Piano』を発売。

藍川 理映子・朝井 大

デュオリサイタル



2014年7月25日(金)
19:00開演
HITOMIホール

主催 : Coming O-bird

Program

ベートーヴェン
L.V. Beethoven

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第5番 へ長調 作品24“春”
Sonata for Violin and Piano No.5 Op.24 in F major "Spring"

第1楽章：Allegro
第2楽章：Adagio molto espressivo
第3楽章：Scherzo Allegro molto
第4楽章：Rondo Allegro ma non troppo

シヨーソン
E. Chausson

詩曲 作品25
Poème Op.25

休憩

リスト
F. Liszt

バラード 第2番 口短調
Ballade No.2 in B minor S.171 R.16

プロコフィエフ
S. Prokofiev

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 二長調 作品94a
Sonata for Violin and Piano No.2 in D major Op.94a

第1楽章：Moderate
第2楽章：Presto
第3楽章：Andante
第4楽章：Allegro con brio

Program notes

●ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827)
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第5番 へ長調 作品24“春”

1801年に書かれた大変有名な曲である。「春」という名称で親しまれているが、これはベートーヴェン自身が付けたものではなく彼の死後につけられた。しかしながら曲の冒頭を聴けばこのタイトルも納得である。曲は全体を通して喜びと希望に満ち溢れており、また優雅さもあがりながらユーモアを感じさせる瞬間もある。

ベートーヴェンはドイツで生まれオーストリアで活躍した作曲家で自然をこよなく愛していたが、ヨーロッパのその国特有の暗くて長い冬のあと、待ちわびた春が訪れたときの喜びの感情を表しているように思える。

●エルネスト・シヨーソン (1855~1899) 詩曲 作品25

フランスの作曲家シヨーソンはパリでマスネ、フランクに作曲を学び、その後バイロイトでワーグナーの影響を強く受けており、彼の作品は和声やオーケストレーションにおいてワーグナーの影響を受けつつも繊細で色彩豊かである。

この「詩曲」はヴァイオリンと管弦楽(またはピアノ)のための作品で作曲家・ヴァイオリニストであったイザイに献じられ初演されている。44歳という短い生涯で残した彼の作品の中で、神秘的で美しいこの作品は最も有名な代表作として人々に愛されている。またこの作品はロシアの作家ツルゲーネフの小説「愛の勝利の歌」に基づく交響詩として着想されたが、シヨーソンはこの小説の持つ神秘的な物語性を絶対音楽的な理念にまで高め、標題を取り去り、「詩曲」(ポエム)として発表したといわれている。

●フランス・リスト (1811~1886) バラード 第2番 口短調

リストが作曲した2曲のバラードのうち演奏される機会が圧倒的に多いこの2番は、彼が唯一残した最大傑作のピアノソナタと同じ年に完成され、同じ口短調で書かれている非常に巨大な作品となっています。暗闇の中を流れる大河のうねりのような男性的な旋律、優美で繊細な女性的な旋律が対比的に現れ、様々な技巧を用いて叙情的そして劇的な幻想曲のような作品となっています。

●セルゲイ・プロコフィエフ (1891~1953)
ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 二長調 作品94a

ロシア生まれのプロコフィエフはサンクトペテルブルクで作曲・ピアノを学んだ。1917年ロシア革命が起こり亡命する決意をし、翌年シベリア、日本を経由してアメリカ、パリなど海外で20年ほど活動をした。日本には2か月ほどの滞在だったがこの短い期間にプロコフィエフは日本の影響も受けているといわれている。その後、再び1936年社会主義のソビエトへ帰国している。彼の作品の作風はこうした環境に応じて大きく3つの時期に区分できる。交響曲、オペラ、映画音楽、室内楽、ピアノ曲、協奏曲あらゆるジャンルの作品が残されているが、特に自身が優れたピアニストでもあったため多くのピアノ作品が残されている。

このヴァイオリンソナタ第2番は原曲はフルートソナタで、1942年ころモスクワに住んでいたプロコフィエフが独ソ戦の混乱を避けてウラル地方に疎開していたときに作られている。そのフルートソナタの初演を聴いていたヴァイオリニストのダヴィッド・オイストラフがヴァイオリンソナタへの改作を熱心に勧め、それに応じたプロコフィエフがピアノパートは原曲のままにし、ヴァイオリンパートをオイストラフの助言を受けながら改作を行い1944年に完成した作品である。

